



発生動向等サーベイランス情報

マダニが媒介する感染症から身を守ろう！～春から秋に注意～

病原体を持つマダニに刺されると、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱などのダニ媒介感染症にかかることがあります。

致死率が27%と言われているSFTSは、今まで西日本での発生が多い状況でしたが、県内で感染したと考えられる患者が確認されたことから、県内のどこで感染者が発生してもおかしくない状況です。

マダニは、自然が豊かな森や林のほか、畑やあぜ道などにも生息していますので、刺されないように注意しましょう。



実際のサイズ
3～8mm

＜マダニに刺されないためのポイント＞

- 肌の露出を少なくする → 帽子・手袋の着用、首にタオルを巻く
- 長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する
- サンダルを避ける ○マダニに効果のある虫よけ剤を使用する
- 明るい色の服を着る（マダニを目視で確認しやすくするため）



▲ダニ媒介感染症
(栃木県HP)

感染対策のポイント

シリーズ15:診断が難しいダニ媒介感染症

ダニの仲間によって起こる感染症のほとんどは、特殊な検査を行わないと診断が難しく、感染症診療のプロでも判断に迷うことが多々あります。この特殊な検査は、「ダニに刺された」という情報がない限り通常行うものではないので、ダニに刺されたかどうかの判断が重要となります。ダニが吸血中であつたり、派手な刺し口がある場合には患者本人も気づくと思いますが、ダニに刺された自覚がない方もおられます。ダニに刺されるリスクのある方（山間部に住んでいる、野歩きをした、草刈りをした、など）が体調不良（とくに発熱）で受診する場合に、その情報をきちんと医師に伝えることが重要です。

感染症専門家からのアドバイス



話題の重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、潜伏期間が6日～2週間程度と幅があります。ダニに刺されて忘れた頃に体調が悪くなるケースがあることも頭の片すみに入れておきましょう。直接接触での感染性はそれほど高くないと考えられていますが、ヒトーヒト間での感染事例が報告されています。早めに診断を受けることは感染対策の点でも重要と言えるのではないのでしょうか。